

## 12月終業式奨励

聖書 ルカによる福音書 10章 25-28節（新約聖書 126頁）

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

**“ THINKERS LODGE ”**

今、18世紀中頃から始まった産業革命が地球温暖化を生み、21世紀を生きるわたしたち、そして未来にどのような影響を与えるのかが具体的にわかるようになりました。しかし一年前の2021年12月、年が明け2月ロシアがウクライナに侵攻すると誰が想像できていたでしょうか。四年前の2019年12月、年が明け1月中国の武漢でウイルス感染が広がると誰が想像できていたでしょうか。

確かに科学や技術は急速に進歩し、文明は発展し、人間の英知は膨大に蓄積されていると思います。しかしどうして戦争、感染症、気候変動による災害を防ぐことができないのでしょうか。

どうも知識や技術が増して豊かで便利になり進歩発展しても、それが互いに愛し合うために用いられているのだろうかと思います。

9月27日の English Day で Jean先生が International Day of Peace 「国際平和デー」を覚えて、カナダのパグウォッシュ（Pugwash）に残る “ THINKERS LODGE ”を訪れた話をしてくださいました。

第二次世界大戦で広島と長崎に原爆が投下されても、終戦後核兵器の拡大が止まらず、それを憂えた世界の科学者たちが集まり共に

平和について話し合った場所です。何も無いロッジ、ただ大きな窓から広い海が見渡せるだけのロッジ、Jean先生は、彼らがここで共に食事をし、散歩をしながら話をしている光景を想像されました。そしてこうした環境で、互いに語り合うことでつながりが生まれ、平和が訪れると話していました。

冒頭の学院聖句で、イエスから「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と問われた律法の専門家は「正しい答え」を言いました。律法の専門家は知識としてよく知っていました。イエスは続いて「それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」とされています。知っている、知識、技能があることは必要なことです。しかし大切なのは互いに愛し合うために用いることです。

高校3年生との選択授業で、卒業を控えた英和生が自ら調べプレゼンテーションをしてくれました。テーマは校則、不登校、アルバイト、男女の友情関係など具体的な内容でした。そして彼らにとっての新しい知識、思い、考えを聞かせくれました。いま、残る在校生たちが自ら校則について感じ、思い、考えていることを話し合い始めていると聞いています。自ら感じ、思い、調べ、考え、話し合い、共に祈ることは具体的な愛の行いであり、平和へとつながります。どうか英和が静岡、日本、世界の“**THINKERS LODGE**”になることを祈っています。そして英和女学院から世界に平和を発信してほしいと願っています。少し早いですが、新しい年が少しでも平和な一年となりますように。

(しばらく黙祷しましょう)

わたしたちを愛し、励まされる主よ。後期これまでの学びを守り導いてくださったことを感謝します。どうか心身共に休み、喜びと感謝をもって新しい年を迎え、心新たに歩み始めることができますように導いてください。主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン